



# 2020年12月期 第2四半期 決算説明会資料

## 荏 原 (6361)

2020年8月11日

Looking ahead,  
going beyond expectations  
*Ahead > Beyond*

株式会社 荏原製作所

# 目次



決算のポイント	P3	5. トピックス	
1. FY20 1-2Q 連結決算サマリ		① 新規事業への取り組み	P14
① 連結業績	P4	② DXの取り組み	P17
② セグメント別	P5	6. 補足資料 数値サマリ	
③ 地域別売上高	P6	① 受注高	P19
2. FY20 1-2Q セグメント別業績		② 売上高	P20
① 風水力	P7	③ 営業利益	P21
② 環境プラント	P8	④ 受注残高	P22
③ 精密・電子	P9	⑤ 地域別売上高	P23
3. FY20 業績予想		⑥ 貸借対照表	P24
① 連結業績	P10	⑦ キャッシュ・フロー	P25
② セグメント別	P11	⑧ 資本的支出、減価償却費、研究開発費	P26
4. 新型コロナウイルス感染症拡大の影響	P12		

#### ✓ 略語の説明

- FY：会計年度（例 「FY20」は2020年12月期会計年度）
- 「1Q」は第1四半期の数値、「1-2Q」、「1-3Q」、「1-4Q」はそれぞれ第1四半期から各四半期末までの累計値であることを示している
- ✓ 本資料で示す「地域別売上高」は売上先所在地別売上高を示している

## 決算のポイント

### FY20 1-2Q 業績

		対前年同期比*
■ 受注高	2,576億円	(+4.9%) →
■ 売上高	2,454億円	(-1.0%) →
■ 営業利益	136億円	(+5.3%) ↑

### FY20 業績予想

		対前期比
■ 受注高	5,060億円	(-8.4%) ↓
■ 売上高	5,060億円	(-3.1%) →
■ 営業利益	300億円	(-15.0%) ↓

### 1-2Q 業績

- 半導体市場の設備投資は一部で延期も見られるが高い水準が維持され、精密・電子事業の受注が増加
- 営業利益は、風水力事業における収益性の改善と固定費減少により増益

### 業績予想の前提

- 風水力事業：建築設備市場と石油・ガス市場でコロナの影響を一定程度見込む
- 環境プラント事業：コロナの影響無し
- 精密・電子事業：旺盛な半導体需要に支えられ、下半期の業績の回復を見込む

\* ↑は+5%以上、↓は-5%以下の変化を、→は変化が±5%未満であることを表す

決算のポイント：

## 1. FY20 1-2Q 連結決算サマリ 連結業績



(単位：億円)	FY19 1-2Q 実績	FY20 1-2Q 実績	増減
受注高	2,456	2,576	+119
売上高	2,480	2,454	-25
営業利益	129	136	+6
売上高営業利益率	5.2%	5.6%	+0.4pts
経常利益	133	124	-9
親会社株主に帰属する 四半期純利益	80	74	-5
為替レート(対USD)	JPY107.79	JPY107.74	

### 1. FY20 1-2Q 連結業績サマリ：

- 受注高：2,576億円（対前年同期増減+119億円）
- 売上高：2,454億円（同-25億円）
- 営業利益：136億円（同+6億円）、営業利益率：5.6%
- 当期親会社株主に帰属する四半期純利益：74億円（同-5億円）
- 為替レート（対米ドル）：107円74銭

# 1. FY20 1-2Q 連結決算サマリ セグメント別



(単位：億円)		FY19 1-2Q	FY20 1-2Q	増減
		実績	実績	
連結合計	受注高	2,456	2,576	+119
	売上高	2,480	2,454	-25
	営業利益	129	136	+6
	売上高営業利益率	5.2%	5.6%	+0.4pts
風水力	受注高	1,617	1,503	-114
	売上高	1,542	1,492	-49
	営業利益	53	82	+28
	売上高営業利益率	3.4%	5.5%	+2.1pts
環境プラント	受注高	305	360	+54
	売上高	321	287	-34
	営業利益	30	22	-8
	売上高営業利益率	9.6%	8.0%	-1.6pts
精密・電子	受注高	525	704	+179
	売上高	608	667	+58
	営業利益	44	37	-7
	売上高営業利益率	7.3%	5.6%	-1.7pts
その他、調整	受注高	7	7	-0
	売上高	7	7	-0
	営業利益	1	-5	-6
	売上高営業利益率	13.5%	-82.1%	-95.6pts

5 | Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

Looking ahead, going beyond expectations  
Ahead > Beyond

## 1. FY20 1-2Q 連結業績サマリ セグメント別：

### <受注高>

- 風水力事業が主にコロナの影響により減少したが、環境プラント事業と精密・電子事業がカバーし、全社では増加

### <売上高>

- 精密・電子事業が増加したが、風水力事業と環境プラント事業が減少したことにより全社では減収

### <営業利益>

- 主に風水力事業の収益性改善や固定費減少により全社では増益

## 1. FY20 1-2Q 連結決算サマリ 地域別売上高



(単位：億円)	FY19 1-2Q		FY20 1-2Q		増減
	実績	構成比	実績	構成比	
連結合計	2,480	100.0%	2,454	100.0%	-25
日本	1,168	47.1%	1,125	45.9%	-42
海外	1,311	52.9%	1,329	54.1%	+17
中国	382	15.4%	315	12.8%	-67
アジア (中国除く)	379	15.3%	499	20.3%	+119
北米	244	9.9%	203	8.3%	-41
欧州	135	5.5%	170	7.0%	+35
中東	110	4.5%	95	3.9%	-15
その他	59	2.4%	45	1.8%	-13

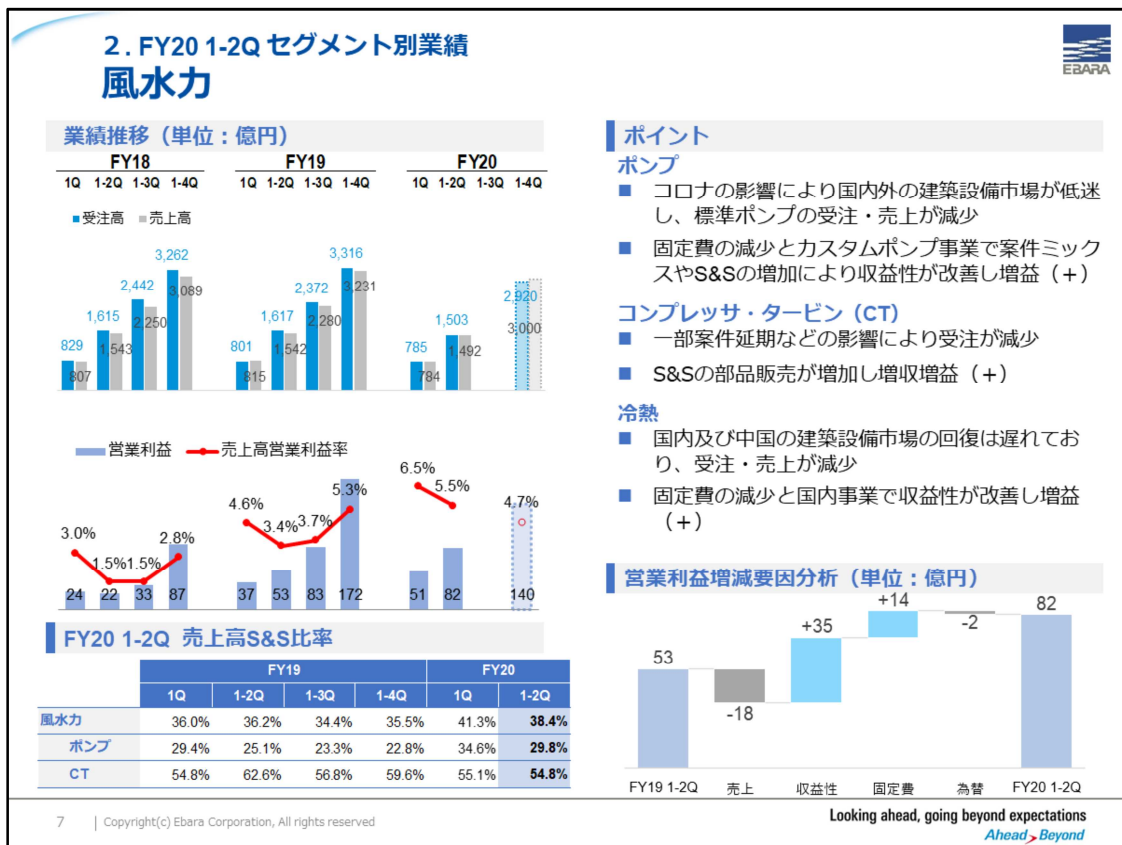
### 1. FY20 1-2Q 連結業績サマリ 地域別売上高：

#### ■ 中国向けの売上が67億円減少

- 主にコロナの影響。中国では、いち早く経済活動再開の動きがあり、4月から6月の3カ月間においては、その前年同期に対して減少額は軽微

#### ■ 中国除くアジア向けの売上が119億円増加

- コロナの感染が中国から欧米へと広まり、ロックダウンや移動制限の影響が出たが、アジアにおいては半導体メーカーによる設備投資が好調



## 2. FY20 1-2Q セグメント別業績 風水力：

受注高：1,503億円（対前年同期増減-114億円）

売上高：1,492億円（同-49億円）

営業利益：82億円（同+28億円）

### ■ ポンプ事業：減収増益

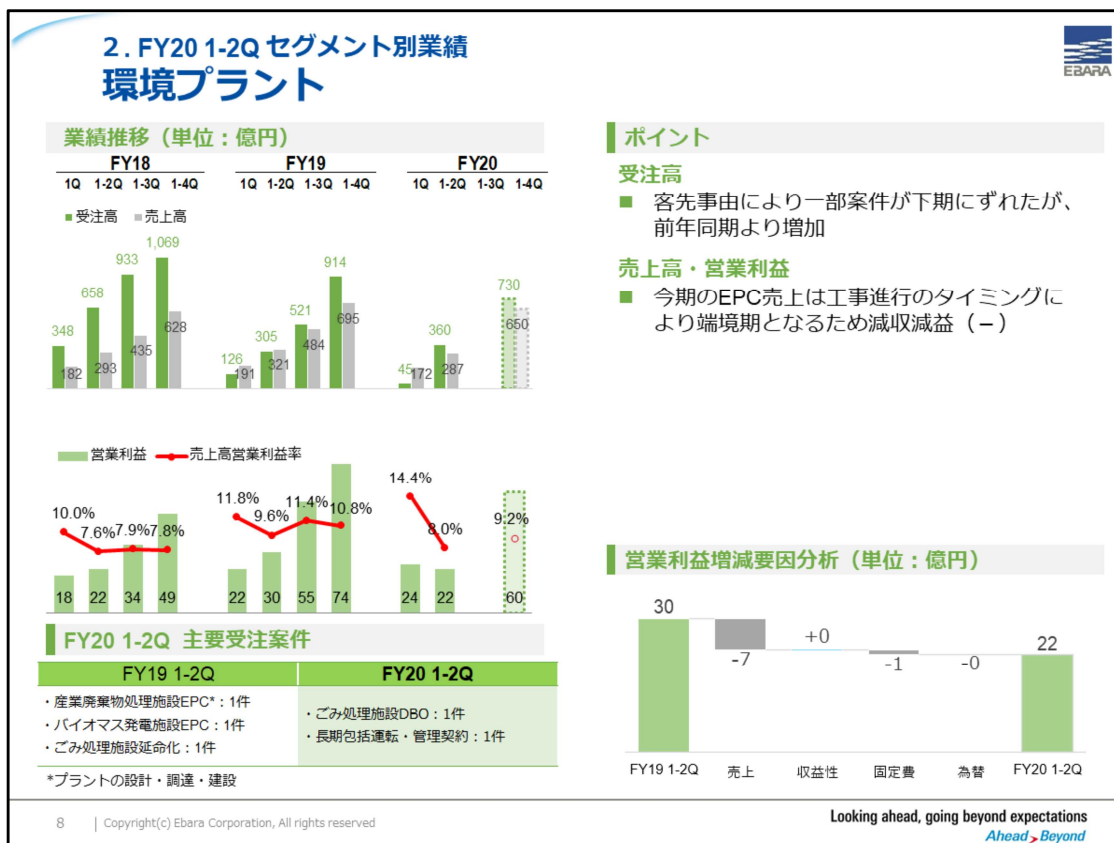
- コロナの影響を受けた建築設備市場で標準ポンプを中心に受注・売上が減少
- カスタムポンプ事業で好採算案件が売上がったことや、生産性改善、固定費の減少により、ポンプ事業全体として増益

### ■ コンプレッサ・タービン事業：増収増益

- 収益性の高い部品案件の売上増加などサービス&サポートのミックス改善により増益

### ■ 冷熱事業：減収増益

- 中国で経済活動が再開し、景気の持ち直しがみられたものの、中国市場の競争環境は引き続き厳しい状況
- 国内市場では、冷却塔事業における収益性改善や固定費の減少によって増益



## 2. FY20 1-2Q セグメント別業績 環境プラント:

受注高: 360億円 (対前年同期増減+54億円)

売上高: 287億円 (同-34億円)

営業利益: 22億円 (同-8億円)

環境プラント事業においては、コロナの業績への影響はなし

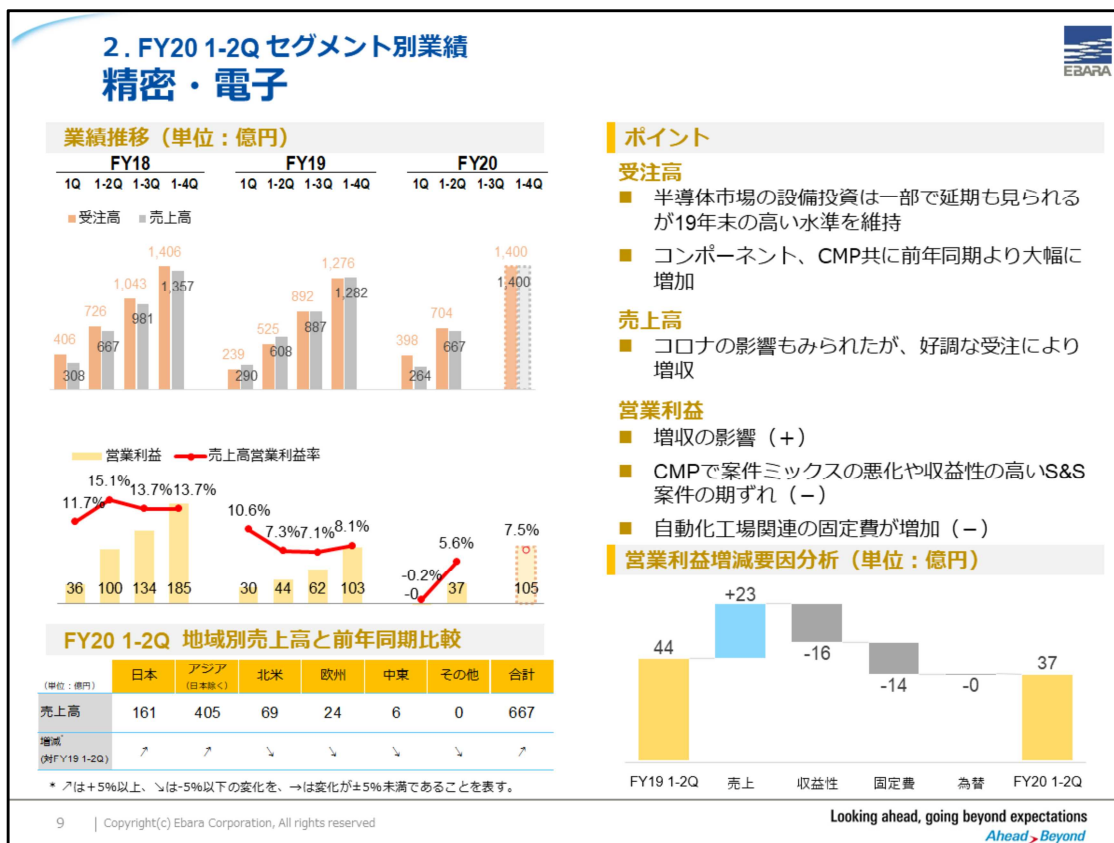
### <受注高>

- 大型案件としてごみ処理施設のDBO案件を1件、長期包括運転・管理契約を1件、それぞれ獲得
- 当初計画していたEPCの案件が客先事由により下期へ期ずれしたが、受注高は前年同期を上回る

### <売上高・営業利益>

- EPCの工事進行売上案件が進捗の端境期にあることなどにより減収減益





## 2. FY20 1-2Q セグメント別業績 精密・電子 :

受注高 : 704億円 (対前年同期増減+179億円)

売上高 : 667億円 (同+58億円)

営業利益 : 37億円 (同-7億円)

### <受注高・売上高>

- 受注高・売上高はともに前年同期を上回る
- コロナの影響が懸念されたが、在宅勤務やEコマースに代表される新しい生活様式の世界的な広がりによってパソコンやサーバ需要が増大し、半導体市場における設備投資は引き続き高水準で推移

### <営業利益>

- CMP事業で案件ミックスや改造案件の延期などにより収益性が低下
- コンポーネント事業でドライ真空ポンプの自動化工場の立ち上げ一時費用や減価償却費などの固定費増加により減益

### 3. FY20 業績予想 連結業績



(単位：億円)	FY19 1-4Q 実績 a	FY20 1-4Q 計画 b	増減 b-a	<参考値> 計画 20/02/26
発表日(年/月/日)		20/08/11		
受注高	5,522	5,060	-462	5,500
売上高	5,224	5,060	-164	5,260
営業利益	352	300	-52	306
売上高営業利益率	6.8%	5.9%	-0.9pts	5.8%
経常利益	355	270	-85	291
親会社株主に帰属する 当期純利益	233	170	-63	185
ROIC	6.5%	4.6%	-1.9pts	5.0%
1株当たり配当金	60円	60円	-	60円
中間配当金	30円	30円	-	30円
期末配当金	30円	30円	-	30円

10 | Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

Looking ahead, going beyond expectations  
Ahead > Beyond

### 3. FY20 業績予想 連結業績：

#### <業績予想>

- 受注高は5,060億円（対前期増減-462億円）
- 売上高は5,060億円（同-164億円）
- 営業利益は300億円（同-52億円）
- 想定為替レート：105円/米ドル、120円/ユーロ

#### <配当予想>

- 1株当たりの年間配当金を60円（期初計画から変更なし）

### 3. FY20 業績予想 セグメント別



(単位：億円)		FY19 1-4Q 実績 a	FY20 1-4Q 計画 b 20/08/11	増減 b-a	<参考値> 計画 20/02/26
発表日(年/月/日)					
連結合計	受注高	5,522	5,060	-462	5,500
	売上高	5,224	5,060	-164	5,260
	営業利益	352	300	-52	306
	売上高営業利益率	6.8%	5.9%	-0.9pts	5.8%
風水力	受注高	3,316	2,920	-396	3,240
	売上高	3,231	3,000	-231	3,180
	営業利益	172	140	-32	150
	売上高営業利益率	5.3%	4.7%	-0.6pts	4.7%
環境プラント	受注高	914	730	-184	840
	売上高	695	650	-45	670
	営業利益	74	60	-14	55
	売上高営業利益率	10.8%	9.2%	-1.6pts	8.2%
精密・電子	受注高	1,276	1,400	+123	1,400
	売上高	1,282	1,400	+117	1,390
	営業利益	103	105	+1	105
	売上高営業利益率	8.1%	7.5%	-0.6pts	7.6%
その他,調整	受注高	15	10	-5	20
	売上高	15	10	-5	20
	営業利益	1	-5	-6	-4
	売上高営業利益率	10.9%	-50.0%	-60.9pts	-20.0%

11 | Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

Looking ahead, going beyond expectations  
Ahead > Beyond

### 3. FY20 業績予想 セグメント別：

#### ■ 風水力事業：減収減益（対前期比）

- 建築設備市場においては、コロナの影響により工事中断や着工遅延が発生し、下期のリカバリーが困難
- 石油・ガス市場においては、原油価格の低迷などによりプロジェクトの延期や停滞などで受注が減少見込み

#### ■ 環境プラント事業：減収減益（同）

- 計画しているEPC案件の入札が客先事由によって来期へ延期されたことにより受注高予想を730億円
- 追加原価低減策を講じるが前期と比べて減収減益となる見込み

#### ■ 精密・電子事業：増収、営業利益横ばい（同）

- 足元では半導体市場の設備投資動向に注視が必要だが、中長期的には半導体需要の高まりによって成長していく見込み
- 受注高、売上高は前期を上回る計画だが、固定費負担増加などによって営業利益は横ばい

#### 4. 新型コロナウイルス感染症拡大の影響 セグメント別の状況



- 当事業の対面市場は社会・産業インフラとして底堅く、回復傾向
- 当社はステークホルダーの健康・安全を優先しつつ、迅速な生産・在庫対応などを実行することにより、コロナ影響の最小化・社会貢献に尽力

主な市場	1-2Q		3-4Q見通し		
	市場環境	当社への影響	市場環境	当社への影響	
ポンプ	建築設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 日本を含む先進国や新興国で建設工事の中断や着工遅延</li> <li>■ 各国のGDPはマイナス成長</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 日本、中国、欧米、東南アジアで標準ポンプの受注・売上が減少</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 日本を含む先進国や新興国で建設工事の中断や着工遅延</li> <li>■ 各国のGDPは緩やかに回復</li> <li>■ 中国は回復傾向だが、コロナ以前には戻らず</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 需要減少により標準ポンプの受注・売上が減少する見込み</li> </ul>
	石油・ガス	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 中国以外の地域で案件の発注遅延や工事遅延</li> <li>■ S&amp;S実施時期の延期要請</li> <li>■ 人の移動制限や隔離</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 製品の受注が中国以外の地域で減少</li> <li>■ S&amp;Sの受注が全地域で減少</li> <li>■ CTではS&amp;Sの売上が北米で減少</li> <li>■ 立会試験や指導員派遣が制限</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 案件の発注遅延、工事遅延</li> <li>■ S&amp;S実施時期の延期要請</li> <li>■ 人の移動制限や隔離</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 製品・S&amp;Sの受注が減少する見込み</li> <li>■ 受注の減少は来期の売上にも影響する見込み</li> </ul>
CT					

#### 4. 新型コロナウイルス感染症拡大の影響：

- 対面市場は、社会・産業インフラとして底堅い状況
- 当事業は、コロナの感染拡大時期には、一時的に中国、イタリア、フィリピンの工場稼働を停止せざるを得ない状況もあったが、現地従業員への感染防止、サプライチェーンの確保によって事業活動を継続
- 日本でも感染拡大に注意しながら、国内工場の生産、社会インフラなどの工事を中断することなく対応
- 精密・電子事業では渡航制限がかかる中、装置立ち上げは現地人材を最大限に利用し、顧客の工場立ち上げ工程、計画への影響を最小限にするよう注力

#### 4. 新型コロナウイルス感染症拡大の影響 セグメント別の状況



	主な市場	1-2Q		3-4Q見通し	
		市場環境	当社への影響	市場環境	当社への影響
冷熱	建築設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 中国で案件の発注遅延、中止</li> <li>■ 日本でS&amp;Sの実施時期の延期</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 中国で製品の受注・売上が減少</li> <li>■ 日本でS&amp;Sの受注・売上が減少</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 中国は回復傾向だが上期の影響が残る</li> <li>■ 日本でS&amp;Sの案件が動き出す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 中国で製品の受注・売上が減少する見込み</li> <li>■ 日本でS&amp;Sの受注は回復傾向となるが、売上が減少する見込み</li> </ul>
環境プラント	ごみ処理施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 影響なし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ なし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 影響なし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ なし</li> </ul>
精密・電子	半導体	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 5月以降の各国の経済活動再開により市場予測がプラス成長に転換</li> <li>■ 全世界的な人の移動制限や隔離政策の実施</li> <li>■ 一部の半導体メーカーで設備投資計画に遅延が見られ始める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 顧客に在庫積み増しの動きがあり、受注が増加</li> <li>■ 日本からの移動制限のため、現地リソース不足によりS&amp;Sが期ずれ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 5月以降の各国の経済活動再開により市場予測がプラス成長に転換</li> <li>■ 一部地域を除き人の移動制限や隔離が緩和</li> <li>■ 一部顧客の設備投資時期の延期により発注や出荷時期が遅延</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ コンポーネントの受注が減少する見込み</li> <li>■ 装置の立上げの遅延リスク</li> </ul>

## 5. トピックス 新規事業への取り組み



E-Vision2030で掲げる重要課題の解決に向けて新規事業への取り組みを強化

- マーケティング組織：全社横断的組織の強化など
- R&D：コア技術の強化、新規事業に繋がる研究テーマの創出、研究開発人材の多様化
- 新規事業アイデア公募制度「E-Start」：社内で新規事業アイデアを公募、審査し、早期に事業化を目指す制度
- 外部との業務提携：ベンチャー企業や大学など

	既存技術・製品	新規技術・製品
既存市場	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 流体技術</li> <li>■ 材料技術</li> <li>■ 数値解析</li> <li>■ 回転技術 など</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ AIクレーン(Ridge-i社)</li> <li>■ 小型ロボット(ハイボット社)</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年5月 ハイボット社と資本業務協定</li> <li>・在原環境プラントとハイボット社の共同開発による、水浸超音波探傷センサを搭載した小型走行型ロボット『SQUID (スクイッド)』を共同で開発</li> </ul>
新規市場	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 構造たんぱく質素材 (Spiber社)</li> <li>■ 陸上養殖 (リージョナルフィッシュ社)</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年6月 リージョナルフィッシュ社と資本業務提携</li> <li>・在が創業以来培ってきた流体・熱制御などの技術を活かした陸上養殖の省力化・自動化に関わる開発を推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ リアルテックグローバルファンド (リアルテックHD社)</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年7月 リアルテックグローバルファンドへの出資</li> <li>・東南アジアの科学技術系スタートアップを投資対象とするファンドへ出資</li> </ul>

※ 表内記載の年月は公表日

### 5. トピックス 新規事業への取り組み：


#### ■ 長期ビジョン「E-Vision 2030」で掲げる新規事業の創出

- 新規事業は、重要課題、持続可能な社会づくり、進化する豊かなくらしづくりに、荏原の強みを生かして貢献できる分野にフォーカス






#### ■ 新規事業への取り組み状況

- 2020年に全社横断のマーケティング統括部の設置、その配下の次世代事業開発推進部が新規事業を担当
- 技術面で全面的にサポートするR&D体制の強化
- 社内からアイデアを公募する制度「E-Start」の実施
- 外部リソースの積極的な活用（4つの協業、1つの出資）
  - ① ゴミ処理施設におけるAIクレーン（Ridge-i社）
  - ② 構造タンパク質素材（Spiber社）
  - ③ ボイラーなどの配管の肉厚検査（ハイボット社）
  - ④ 陸上養殖（リージョナルフィッシュ社）
  - ⑤ 東南アジアの社会課題解決に向き合うスタートアップ企業を支援（リアルテックグローバルファンドへの出資）

## 5. トピックス 新規事業への取り組み ～陸上養殖～



2020年6月に次世代水産養殖システムを目指すフードテックスタートアップ企業のリージョナルフィッシュ社と資本業務提携を締結

背景	<ul style="list-style-type: none"> <li>水産資源の世界的な需要増加と、養殖ビジネスの拡大に伴う従来型の海面養殖による水域汚染が問題化している背景に着目し、陸上養殖事業推進プロジェクトを立ち上げた</li> <li>地球環境に負担が少なく、外部環境に左右されない安定した品質と量が供給可能な養殖システムの実現を目指す</li> </ul>
E-Vision2030重要課題	持続可能な社会づくりへの貢献 <div style="float: right; text-align: right;">    </div>
パートナー	リージョナルフィッシュ社 (2020年6月 資本業務提携) <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center; margin-top: 10px;">  <span style="font-size: 2em; margin: 0 10px;">×</span>  </div>
ターゲットとする陸上養殖事業	閉鎖循環式陸上養殖
在元の活用技術	創業以来培ってきた流体・熱制御などの技術を活かした陸上養殖の省力化・自動化及び生産性向上に関わる開発を進める →流体技術や冷熱技術、ごみ処理施設の廃熱などを活用

15 | Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

Looking ahead, going beyond expectations  
*Ahead > Beyond*

## 5. トピックス 新規事業への取り組み～陸上養殖～：

### ■ 背景

- 近年、世界の養殖業による漁獲量は、漁業による漁獲量9千万トンに対して同水準まで伸びており、今後さらに増える予想
- 海洋汚染、環境負荷などの課題から陸上養殖に注目
- 地球環境に負担が少なく、外部環境に左右されない安定した品質と量が供給可能な養殖システムを実現するため、陸上養殖事業推進プロジェクトを立ち上げ

### ■ リージョナルフィッシュ社との資本業務提携

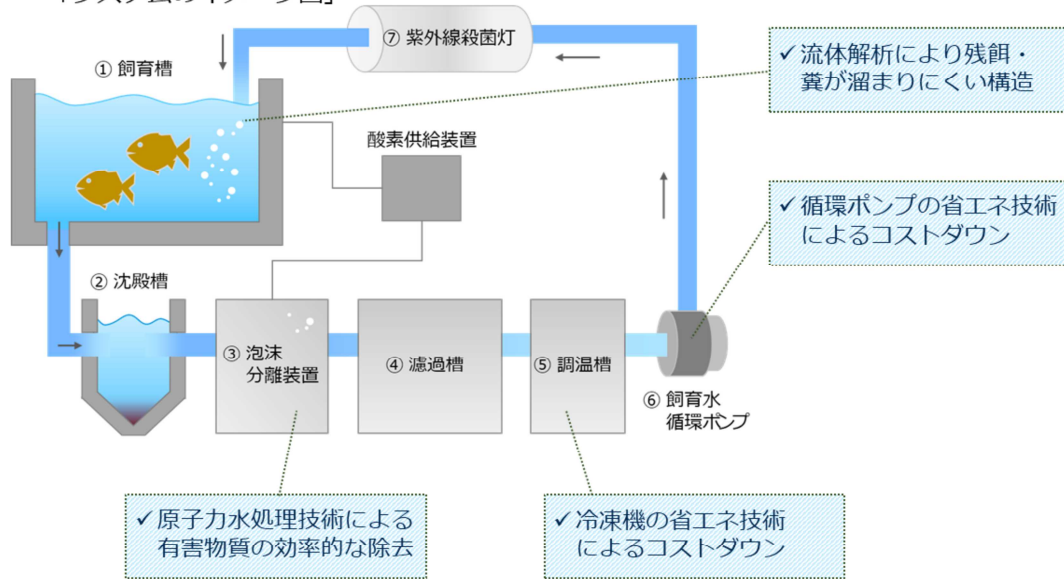
- 京都大学、近畿大学などの水産物の品種改良技術シーズをコアとして設立されたフードテックスタートアップ企業
- 協業を通して、陸上養殖での課題に向き合い、ソリューションを確立

## 5. トピックス 新規事業への取り組み ～陸上養殖～



EBRは閉鎖循環式システム構成機器の要素技術を多数保有

「システムのイメージ図」



16 | Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

Looking ahead, going beyond expectations  
Ahead > Beyond

### 5. トピックス 新規事業への取り組み～陸上養殖～：

荏原が創業以来培ってきた流体、熱制御、有害物質除去などの技術活用によりコスト低減が可能

- 飼育槽の最適構造設計
- 水の循環・温度管理の最適化と省エネ
- 濾過槽の効率化 など

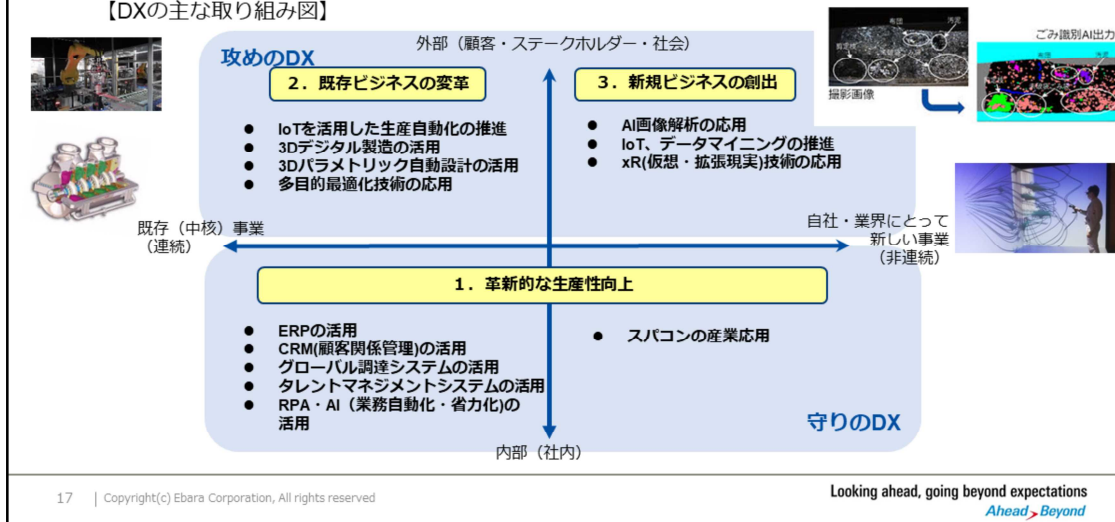


## 5. トピックス DXの取り組み



- 「技術で、熱く、世界を支える」ためにDXを駆使し、業界をリードする効率性の高い経営・事業遂行を実践する
- データとデジタル技術を駆使し、製品やサービス、ビジネスモデルをグローバルに変革する「攻めのDX」と、それを支えるERPやタレントマネジメントシステムなどの情報インフラを整備する「守りのDX」、攻めと守りの両面からDXを推進する

【DXの主な取り組み図】



### 5. トピックス DXの取り組み：

- E-Plan2022は「更なる成長に向けた筋肉質化」のステージ
- E-Plan2022の基本方針「経営・事業インフラの高度化」として、DXの積極的な取り組み等による経営判断のスピードアップ
- データとデジタル技術を駆使して、製品、サービス、ビジネスモデルをグローバルに変えていく「攻めのDX」と、それを支えるERP、タレントマネジメントシステムなどの情報インフラを整備する「守りのDX」を実現

## 5. トピックス DXの取り組み ～全社ERP導入～



- インターナショナル経営からグローバル経営へ
- 2024年末までにEPRを全グループ会社へ導入し、グローバルで業務標準化を目指す

【従来】各部門で業務システム・プロセスが異なり、  
全社経営活動状況の把握が難しい



【ERP導入】よりタイムリーで正確な経営の可視化



### 【ERP導入プロジェクト】

1. 全グループ会社へ展開
  - グローバル含めた全グループ会社に2024年末までの導入を目指す
2. 組織体制の強化
  - 社長をはじめ経営陣自らが参画
  - DXに知見をもった高度専門人材の採用
  - ERP導入専任体制（70名）の構築
3. 経営管理の高度化
  - マネジメントサイクル短縮、決算の早期化
  - 予実管理の精度向上
4. 業務改革
  - 業務の効率化・高度化
  - グローバルでの業務の標準化
  - アプリケーション削減、ITコスト削減

## 5. トピックス DXの取り組み ～全社ERP導入～ :

### ■ 目指す姿

- インターナショナル経営からグローバル一体経営への転換
- 業務を変革し、全グループ会社へERPを導入し、グローバルで業務標準化

### ■ ERP導入プロジェクト

- 今年2月にIT担当役員の小和瀬をトップとするERP導入プロジェクトの立ち上げ
- ERP導入体制は社員70名、外部コンサルを含めると100名超
- 1か月に一度開くステアリングコミッティでは、経営トップを含む全執行役が参加し、プロジェクトが確実にオンタイムで進捗するようマネジメント
- ERP導入後の定着や運営、さらには進化させていくための社内人材の育成を並行して実施

## 6. 補足資料 数値サマリ 受注高



(単位：億円)

発表日(年/月/日)	FY19 実績 a	1-2Q FY20 実績 b	増減 b-a	FY19 実績 c	1-4Q FY20 計画 d 20/08/11	増減 d-c	<参考値> FY20 1-4Q 計画 20/02/26
	連結合計	2,456	2,576	+119	5,522	5,060	-462
風水力	1,617	1,503	-114	3,316	2,920	-396	3,240
ポンプ	886	833	-53	1,763	1,640	-123	1,810
CT	456	428	-28	1,020	830	-190	930
冷熱	203	168	-35	381	320	-61	380
その他	70	73	+3	151	130	-21	120
環境プラント	305	360	+54	914	730	-184	840
精密・電子	525	704	+179	1,276	1,400	+123	1,400
コンポーネント	252	316	+64	535	590	+54	580
CMP	248	359	+111	677	755	+77	750
その他	24	28	+3	63	55	-8	70
その他	7	7	-0	15	10	-5	20

## 6. 補足資料 数値サマリ 売上高



(単位：億円)

発表日(年/月/日)	FY19 実績 a	1-2Q FY20 実績 b	増減 b-a	FY19 実績 c	1-4Q FY20 計画 d 20/08/11	増減 d-c	<参考値> FY20 1-4Q 計画 20/02/26
	連結合計	2,480	2,454	-25	5,224	5,060	-164
風水力	1,542	1,492	-49	3,231	3,000	-231	3,180
ポンプ	884	820	-64	1,749	1,670	-79	1,770
CT	393	442	+49	952	890	-62	910
冷熱	190	164	-25	377	320	-57	370
その他	74	65	-8	152	120	-32	130
環境プラント	321	287	-34	695	650	-45	670
精密・電子	608	667	+58	1,282	1,400	+117	1,390
コンポーネント	296	284	-11	589	575	-14	570
CMP	283	353	+69	626	775	+148	770
その他	28	29	+0	66	50	-16	50
その他	7	7	-0	15	10	-5	20

## 6. 補足資料 数値サマリ 営業利益



(単位：億円)

発表日(年/月/日)	FY19 実績 a	1-2Q FY20 実績 b	増減 b-a	FY19 実績 c	1-4Q FY20 計画 d 20/08/11	増減 d-c	<参考値> FY20 1-4Q 計画 20/02/26
	連結合計	129	136	+6	352	300	-52
風水力	53	82	+28	172	140	-32	150
ポンプ	56	63	+7	110	85	-25	85
CT	-1	12	+13	48	42	-6	45
冷熱	8	12	+4	18	11	-7	15
その他	-9	-6	+2	-4	2	+6	5
環境プラント	30	22	-8	74	60	-14	55
精密・電子	44	37	-7	103	105	+1	105
その他、調整	1	-5	-6	1	-5	-6	-4

## 6. 補足資料 数値サマリ 受注残高



(単位：億円)

発表日(年/月/日)	FY19 実績	1-2Q FY20 実績	増減 b-a	FY19 実績	1-4Q FY20 計画 20/08/11	増減 d-c	<参考値> FY20 1-4Q 計画 20/02/26
	a	b		c	d		
連結合計	4,539	4,944	+405	4,874	4,874	-	5,114
風水力	2,147	2,112	-34	2,167	2,087	-80	2,227
ポンプ	967	953	-14	980	950	-30	1,020
CT	921	900	-20	933	873	-60	953
冷熱	178	169	-9	168	168	-	178
その他	80	89	+8	83	93	+10	73
環境プラント	2,125	2,390	+264	2,361	2,441	+80	2,531
精密・電子	265	440	+174	345	345	-	355
その他	0	0	+0	0	0	-	0

## 6. 補足資料 数値サマリ 地域別売上高



(単位：億円)

	1-2Q		増減
	FY19 実績	FY20 実績	
<b>風水力</b>	1,542	1,492	-49
日本	712	682	-29
アジア（日本除く）	422	395	-27
北米	153	134	-18
欧州	99	146	+46
中東	95	89	-6
その他	59	45	-13
<b>環境プラント</b>	321	287	-34
日本	310	273	-36
アジア（日本除く）	11	13	+2
<b>精密・電子</b>	608	667	+58
日本	144	161	+17
アジア（日本除く）	324	405	+81
北米	89	69	-20
欧州	35	24	-10
中東	15	6	-8
その他	0	0	-0

## 6. 補足資料 数値サマリ 貸借対照表



(単位：億円)

	FY19 2Q 実績 a	FY19 4Q 実績 b	FY20 2Q 実績 c	増減 c-a	増減 c-b
資産合計	5,921	5,952	6,285	+363	+332
流動資産	4,244	4,219	4,518	+273	+298
現預金、有価証券	1,368	951	1,702	+333	+751
売上債権	1,563	1,921	1,608	+45	-312
棚卸資産	1,212	1,211	1,067	-145	-143
その他流動資産	100	135	139	+39	+3
固定資産	1,676	1,733	1,766	+89	+33
負債合計	3,142	3,034	3,396	+253	+362
仕入債務	1,150	1,204	1,195	+45	-8
有利子負債	1,012	809	1,102	+90	+292
その他負債	979	1,019	1,097	+118	+77
純資産合計	2,779	2,918	2,888	+109	-29
自己資本	2,707	2,836	2,814	+106	-22
その他純資産	71	81	74	+2	-7
自己資本比率	45.7%	47.7%	44.8%	-0.9pts	-2.9pts
D/Eレシオ	0.37	0.29	0.39	+0.02	+0.10



## 6. 補足資料 数値サマリ キャッシュ・フロー



(単位：億円)

発表日(年/月/日)	FY19 実績 a	1-2Q FY20 実績 b	増減 b-a	FY19 実績 c	1-4Q FY20 計画 d 20/08/11	増減 d-c	<参考値> FY20 1-4Q 計画 20/02/26
	営業活動CF	302	593	+291	267	385	+117
投資活動CF	-118	-133	-14	-240	-370	-129	-378
フリーCF	183	460	+276	26	15	-11	-48
財務活動CF	62	270	+208	-201	-23	+178	-84

## 6. 補足資料 数値サマリ 資本的支出、減価償却費、研究開発費



(単位：億円)

発表日(年/月/日)	1-2Q			1-4Q			<参考値> FY20 1-4Q 計画 20/02/26
	FY19 実績 a	FY20 実績 b	増減 b-a	FY19 実績 c	FY20 計画 d 20/08/11	増減 d-c	
<b>資本的支出</b>	156	172	+15	343	280	-63	260
風水力	38	50	+12	109	110	+0	110
環境プラント	3	4	+0	9	10	+0	10
精密・電子	111	109	-2	218	140	-78	70
その他、調整	3	7	+4	6	20	+13	70
<b>減価償却費</b>	74	79	+5	151	165	+13	180
風水力	41	41	-0	83	75	-8	75
環境プラント	2	2	+0	5	5	-0	5
精密・電子	21	27	+5	45	60	+14	75
その他、調整	8	8	-0	16	25	+8	25
<b>研究開発費</b>	52	53	+0	115	140	+24	140
風水力	25	23	-1	52	60	+7	60
環境プラント	3	3	-0	7	10	+2	10
精密・電子	23	26	+2	55	70	+14	70

本資料に記載されている業績予想・計画ならびに将来予測は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び、将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。